



「ハジメマシテ、ミナサン～」声が聞こえた先を見てみると・・・！！

琉球大学の大学院生である江田さんが、真和志高校とコラボ授業を実践してくれました。今回は琉球大学の構内で「まちあるき」を実践！



大炎天下と大雨に悩まされる

まちあるきは外を練り歩くため、天候に左右されます。ある時はとても熱く、ある時は大雨で外に出られず。それでも様々な経験を積むことができます。

クリエイティブアーツコースの3つある専攻のうち、「映像表現」という写真・映像を学ぶことができる授業内での取り組みで、琉球大学生や大学院生とコラボすることになりました。

前回発行した広報誌に続き、今回はコラボ第2弾をお届けします。

今回も「考える力」と「感じる力」のトレーニングをするため「まちあるき」を実践。場所は、9月にワークショップの会場となる琉球大学。初めて大学に足を踏み入れた生徒達は、目にとまる全ての建物や大学生たちの様子に、キラキラとした瞳を浮かべていました。今回は大学院生のみならず、真和志高校クリエイティブアーツコースの卒業生で、現在琉球大学地域創造学科へ進学した先輩と、

教育学部美術教育専修でデザインを教えているティトウス先生も一緒にまちあるきをしてくださいました。

構内には大学生がいたずらしたであろう痕跡や、見たこともない施設が沢山。全てを写真におさめる生徒に声を掛けながら、院生や学部生から同うサークルの様子や講義のフィールドとなる場所を1時間程度かけて散策しました。

今回のまちあるきを通して、高校生たちは特殊な写真集を2つ制作します。その制作物をもって琉大祭へと参加し、地域住民との繋がりをアートを通じて体験することになります。自分達で成長していることを振り返って確認しながら、9月にある模擬ワークショップを目指して取り組んでいます。

「先生の、先生？ なんだか不思議な感じしかもめっちゃ身長高いんだけどー！」